

ウガンダの社会課題解決に向けた国際協力

JICAによる人づくり・国づくりへの支援とは。

国際協力機構 (JICA)

ウガンダ事務所 次長 福原一郎

長年の協力が認められる

2021年12月、ウガンダの国会でJICAによるこれまでの国際協力をたたえる決議が採択された。同国会においてこのような決議は史上初めてであり、JICAが行ってきた長年の協力が受益国に認められた瞬間だ。筆者も傍聴席で議論の行方を見守っていたが、多くの議員がJICAの協力に対する感謝の言葉とともに「人づくり」「相互の尊重」「品質を大事にする協力」「魚を与えるのではなく魚の釣り方を教える」などJICAが大事にしている理念に言及したのが印象的であった。歴史的に関係が深い欧州や援助資金量が圧倒的に多い米国や中国がいる中で、日本の国際協力がたたえられたのは特筆すべきことであるし、これは国際協力という概念を超えて日本社会の価値観や日本人の仕事への向き合い方が遠いウガンダで認められた結果でもあると思う。同国による経済発展を通じた貧困削減の取り組みをさらに後押しすべく、JICAは様々なパートナーの知恵や知見を活かして多くのことに取り組んでいる。その成果の一部を誌面の許す限り紹介したい。

ウガンダ北部復興支援

前述の国会決議のきっかけになったのがウガンダ北部復興支援の取り組みだ。北部のアチョリ地域では20年以上続いた内戦の影響により他の地域と比較して貧しい人が多く、発展から取り残されていた。そこでJICAは、道路などのインフラ整備、コミュニティの再生、地方自

治体の能力強化支援を2009年から継続的に行っており、現在は農家の生計向上と生活の質(家計管理、栄養改善、ジェンダーなど)

向上を目指した協力を実施中である。成果の一例として、ある女性農家は本協力を通じて得た様々な知識を別の農家にも広めるべく、これまでになんと840世帯もの農家に対し収入向上につながる野菜の栽培・販売の方法を伝えてきたという。さらに、コミュニティ内で「ジェンダー暴力防止委員会」を立ち上げ自ら啓発に努めるなど、積極的に活動している。

運輸・交通網改善支援

ヒト・モノ・情報の流通を促進し、ウガンダおよび周辺国の経済活性化を図るための運輸・交通網の改善を支援してきた。例えば、ナイル川にかかる斜張橋(通称「ナイル架橋」)は、ケニアのモンバサ港からウガンダの首都カンパラおよびルワンダ・ブルンジを経てコンゴ民主共和国へとつながる幹線道路「北部回廊」の中でも最大級の橋梁だ。2018年の完成によって、物資や人の移動がより円滑かつ安全になったと同時に、美しいデザインやその優れた建設技術を見学しようとアフリカ内外から多くの観光客や技術者が訪れる。また、



アチョリ地域で収穫された野菜に喜ぶ農家とJICA専門家



ライトアップされたナイル架橋